

はじめに

市は、第5次総合計画後期基本計画において、次世代を担う子どもたちに笑顔と元気をつないでいけるよう、重点的、優先的に推進すべき施策の方向を定めています。また、前期基本計画での「残された地域課題」のひとつとして「子どもを安心して産み・育てられる環境づくり」を掲げ、地域全体で子どもの健やかな成長を支える環境づくりが必要です。

このような状況のなかで目標を達成するための施策のひとつに「学校給食の充実」があります。育ち盛りの子どものにとってバランスの取れた食事は、心身の健やかな成長の上でなくてはならないものであり、小学校1年生から中学校3年生までの9年間こそ、望ましい食習慣の形成や自己の健康管理ができる能力を育てることができる重要な時期です。本来、食生活の基本は家庭が担うべきものではあるが、栄養バランスの取れた、安全でおいしい食事を提供する学校給食の役割は非常に大きいものがあります。

日高市学校給食センターは、昭和52年に現在の敷地において稼動以来、「児童生徒の心と体が大きく成長できるよう安全でおいしい学校給食」を目標に掲げ、様々な食育の推進や安心して安全な学校給食の充実に取り組んできました。

また、稼動から40年近くが経過した学校給食センターにおいて、学校給食法で定める学校給食衛生管理基準に対応するため、改修工事や調理器具を導入して運用を続けています。

市は、平成24年度から学校給食センターの整備の方向性の検討を重ねてきており、平成25年度に学校給食センターの施設老朽化の状況と稼動寿命の調査を行い、平成28年度には、学校給食センターの建て替えに向けて、市にとってメリットが考えられるPFI方式をはじめとする各種事業手法の導入可能性調査を実施しました。

この調査報告書に基づき、平成29年7月に庁内関係課で組織する「学校給食センター整備計画策定委員会」で素案を作成し、平成30年8月から公募による市民、保護者代表、学校関係者、学校給食及び学校給食衛生管理基準に関する知識経験者で組織する「学校給食センター整備計画市民検討会議」で検討を行い、ここに「日高市学校給食センター整備計画」を策定しました。